

東日本大震災から3年・・・ 「ありがとう」の反対のことは？



世界中の人々に愛され、尊敬されたマザー・テレサは「ありがとう」の反対の言葉は「あたりまえ」と言ったそうです。漢字で「ありがとう」は「有難う」と書きます。「有ることがとても難しい」、つまり貴重で大切だということです。だから、感動し、感謝するのですね。それが、「あたりまえ」だと思ってしまうと、驚きも感謝の気持ちも生まれません。東日本大震災で、電話が通じなくなったとき、電気がつかなくなったとき、家族と話せることや電気がつくことって、本当に“ありがたい”ことなんだと改めて思いました。でも時間がたつと、そんなこともわすれてしまいがちです。一度、身の回りの「あたりまえ」に目を向けてみましょう。

ここで井村和清(いむらかずよし)さんの「あたりまえ」という詩の一節を紹介します。井村さんはお医者さんをしていましたが、病気のため32歳という若さでこの世を去りました。

あたりまえ

こんなすばらしいことを、
みんなはなぜよろこばないのでしょ
うあたりまえであることを

(中略)

食事が食べられる
夜になるとちゃんと眠れ、そしてまた朝がくる
空気をむねいっぱいにする
笑える、泣ける、叫ぶこともできる
走りまわれる
みんなあたりまえのこと
こんなすばらしいこと、みんなは決してよろこばない
そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ



毎日食事ができることは、はたして「あたりまえ」のことでしょうか。
毎日「あたりまえ」のようにあるものが、じつは「ありがたい」こと、いろいろな人の
おかげであること。「ありがとう」と、心から言える人でいてください。

きりと

食育つうしん返信らん

年 名前

～給食に関するご意見、ご感想などをお寄せください～